

ここすき！特別企画 幼稚園に行ってきました！

国立富士見台幼稚園 幼稚園訪問インタビュー

開園は昭和 41 年で、今年で 53 年目を迎えました。平成 26 年 2 月に建て替えられた園舎は、木のぬくもりがいっぱいの明るく空間の広い、ゆったりとした造りになっています。1 階のホールの舞台には、間もなく開催される行事の準備がされていました。2 階の廊下の壁がガラス張りになっており、そこから 1 階のホールを見られるため他のクラスの活動をお互いに見合うことができ、全体で 10 クラスある大きな園でも、一体感もてるように工夫がされています。



教育目標

単なる知識の習得よりも、自分の好きな遊びを見つけ思う存分楽しんだり、集団生活を通してみんなと一緒にの課題（体操・絵画・制作・剣道・各種行事、等）に我慢強く取り組み、友達と共に同じ経験を共感することで、健全な体と心のバランスのとれた豊かな人間形成の基礎を養う。

園庭には竹やぶや檜の木があり、筍がでたり、どんぐりが拾えるなど四季を感じられる自然にあふれています。木の葉が落ち葉となり、また、実を落とします。そこへ虫や小動物が集まってきて、それらが虫探しやままごとへと遊びを広げていきます。作られたものからは、感動は生まれにくいと感じていて、そのため本物の自然



を大切にしたいと考えているそうです。

恵まれた環境の中で、子ども達は自分の好きなあそびを見つけ思う存分楽しんでいます。学びは遊びから始まると考えていて、さまざまな経験をさせたい為、砂場でのあそびをみてもおだんごを大人がすぐに作ってしまうのではなく、試行錯誤しながら工夫して作っていくように見守



っています。一人ひとりの子どもの優れた才能、それを引き出したいと考えています。そして、トラブルをおそれず、できればトラブルをたくさん経験させたいと考えているそうです。それは、職員としてバスの運転手や体操・英語の先生など子ども達をとり囲む大人がたくさんいて、関わりを見守る目が多いのでできることです。その職員間も、新人を迎えた5月には、研修として一泊で合宿をし、親睦を深めながら、日々の保育の振り返りをします。また、夏には一泊の職員旅行も行い、相互の関わりを深め、悩みなど出し合っています。このような積み重ねが、つながりとして続いているので、辞めた職員も園に顔を出しに来たり、再度働きたいと復職された先生もいるそうです。



子どもの動きを一番に考え、幅広くとられた階段



屋上のプールは火災などの非常時にも対応できる



廊下のオブジェは園児の作品

4代目である小澤園長先生は、父親の運営していた幼稚園の手伝いを自分の勤務の傍ら行っていたそうです。手伝ううちに子ども達の目の輝きに触れ、素晴らしい発想に感動し、笑い声と笑顔にあふれる世界の仕事はこれしかないとの思いから、手伝いから本格的に取り組むようになり、現在に至っています。

休日は時間があれば湖や溪流でのフライフィッシングを楽しみ、日常の生活から離れてリフレッシュしているそうですが、ほとんど地域の活動に参加しているそうです。消防団の団長を務めていたこともあり、地域の付き合いを大切にしています。ご自身の名前「小澤谷守」の由来からも自分が生まれ育った“谷保を守る”ことを、使命と受け止め、地域に根ざして園長をやれることを良いととらえていると話されていました。



園長先生、副園長先生、まさに二人三脚という感じで、お互いの領域を守りつつ尊敬し合い、子どもたちを大切に守り、育てているという思いを大いに感じられたインタビューでした。



←副園長先生から作法を教えてくださいとお茶室

※幼稚園のホームページは市役所ホームページからご覧になれます。

国立市ホームページ→子育て支援ページ→子どもを預ける→幼稚園→国立市幼稚園等一覧